

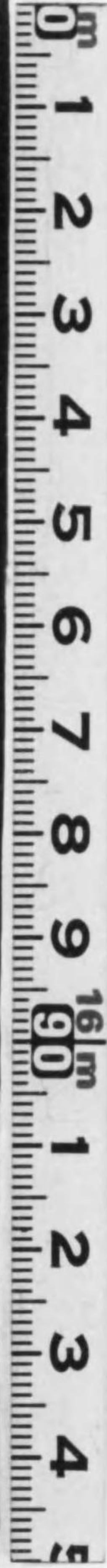
特254

537

平賀周著

滿洲國と北支の新情勢

日本商工俱樂部發行
(金十錢)



始



持 254
537

目次

滿洲國に對する再認識

滿洲國に對する正視	一
國防第一線	二
法匪	四
皇國觀念	五
複雑な警察機關	六
治外法權の撤廢	六
協和會	七
在滿行政機構問題	八
鐵道の一元化	一〇
重要産業	二
一般商品	二五
關稅	二六
幣制と國幣相場	二八
大連と北鮮三港との關係	三一

北支の新情勢

農業移民	三三
主要都市	三五
將來の景氣	三六
見本市と消費組合	三七
南司令官との會見	三九
北支と滿洲	三三
治安の維持と對日感情	三三
深刻なる不景氣	三三
經濟開發と政權の確立	三三
北支の幣制	三六
北平市長との會見	三九
低資融通と棉花獎勵	四三
鹽紡績及人絹等	四三
一話柄	四六



滿洲國に對する再認識

平賀周

滿洲國に對する正視

滿洲事變後、我國民の滿洲に對する關心は非常に大きいもので、國防第一線としての立場よりは勿論、行き詰れる國內の經濟打開策として、將た人口問題の解決策として、絶大の期待を寄せたのも無理からぬことである。けれども今から考へれば、事變直後の期待や關心は、稍熱狂的氣分で、幾分冷靜を缺いた點もないではない、三年後の今日、滿洲國は着々健全なる發達を遂げ、

嚴然たる帝國となつて居り、世界列國の承認するとせざるとを問はず、一大國家を形成して居るのである。而かも國防に於ては勿論、外交に於ても、經濟に於ても、我國と共同依存の關係に於て、一にして二、二にして一たる密接不離の關係に於て、東洋平和の確立に向つて、重大なる國

家の使命を遂行しつゝあるのである。滿洲國の成立及其の使命に就ては、我國民中之れを誤るものはなからふけれども、之れが指導援助の問題や、内政上の問題、若くは日滿經濟ブロックに關する個々の具體的問題に就ては、急速に解決し難い問題もあらうし、認識不足の議論もあらう。茲に於て國民の認識を再検討し、滿洲國を正視し、正解し、建國の精神發揚に向つて、最大の協力を惜まざるの必要を強調せざるを得ないのである。

國防第一線

國防第一線としての滿洲國の立場は、多く説明を要せぬ、露國の東方政策なるものは、日露戰爭後放棄せられた形である。浦鹽から北滿を貫通する東支鐵道も、既に滿洲國に讓渡せられ、今や滿鐵會社の管理に委ねられて居る。露國の心情からいへば、之れは讓渡し度くはなかつたのである。滿洲國成立後、色々反感苦肉の策を構じたけれども、如何ともすることが出来なくなり、全く手も足も出なくなつた結果、讓渡といふことになつたのである。其の間外交上の折衝も色々あつたけれども、軍當局の一通りならぬ裏面工作の苦心もあつたのである。斯くして露國は滿洲

國の領域より全然手を引くに至つたのであるが、其の心情に於て、甚だ釋然たらざるものあることは、想像するに難くない。ハルビンの鐵路局に行つて、露國時代に設備した椅子卓子、其他の調度類を見ても、ハルビンの都市計劃や、公共物の配置や設備を見ても、如何に露國が力瘤を入れて居つたかといふことがわかる。盛んなりし露國時代の街の繁榮、露人の遊び場であつたハンタージヤ其他の踊場等の賑やかなりし當時を思ひ、今日の寂しさと對照して見ると、誠に今昔の感に堪へぬものがある。露國は決して之れを忘れやしない。浦鹽と本國とを結ぶ鐵道は大迂回をせねばならぬ。地圖で見ても浦鹽の頭の上には、滿洲國の領土が深く食ひ込んで居る。前方海の方は北鮮の雄基羅津と、近く相對峙して居る。西比利亞に於ける唯一の港浦鹽と、本國との連絡に就て、露國が頭痛を病んで居ることは素人眼にもわかる。

現に浦鹽方面の國境線に沿うて、一二町置き位に堡(トースカ)を築造し、電話電線を引いて防備を營んで居る。堡の上は草を以て蔽ひ、飛行機で上から見ても、全然わからぬ様にしてある如何に露國が國境防備に腐心して居るかといふことが、此の一事を以てもわかる。軍隊の駐屯、飛行機の集注等のことを聞いても、露國の東方政策の一端がうかがはれるのである。

國境を接して居る結果、種々の問題が絶えず起つて居る。滿洲國建國以來三年五ヶ月間（八月末迄）に、不法越境、拉致、暴行等の事件が、百九十五件に達して居る。尙浦鹽では邦人に對し彈壓追放等の事件が頻出して居る。かく露國と直接國境を接して居る滿洲國の國防の性質が、如何に重大であるかは想像に難くないのである。

吾人の關心は一朝外國との有事の際、滿洲國三千萬民衆が、我國民と同じ氣持ちになつて、共同戦線に立ち、新國家の危急に赴くかといふことである。滿洲國統治指導の上に最も重大な點である。

法 匪

滿洲國政府の要路には、所謂日系官吏が澤山入つて居る。殊に經驗の乏しい少壯官吏が多い。日本で經驗した法律上の技術に長じ、動もすれば法律を作つて形式を整備したがる嫌がある。滿洲人の生活は極めて低い、文化も我國に比して三四十年来後れて居る。生活様式も、教育も、思想も甚だ後れて居る。加之滿洲人の特性は慢々的マシメデーである。何事も悠長であり、何事も無頓着である。

最も進歩した日本人の頭で、最も几帳面な法制好きな日本人が、日本と同じ様な法律制度を整備しやうとする如きは、政治——民を治めることを知らぬ遣り方である。現に滿洲人の間には、「法匪賊」といふ語があるが、これは少壯日本人官吏を指した評語で、一理ある言と思ふ。南司令官と會見した際にも此の點に言及した所、司令官は「少壯の人達は動もすれば功を急いで困る漸進主義でやらねばならぬ」といはれて居つた。

皇 國 觀 念

皇室に對する觀念も滿洲人と日本人とは比較にならぬ。三千年來最も明確に認識し來つた皇室若くは國家に對する日本人の頭と、滿洲人の精神とは元より同日には論ぜられぬ。元來國家觀念の乏しい上に、久しく軍閥巨頭の統治に馴らされて來た滿洲人には、新しく出現した國家、若くは皇室に對して、明確な認識は急には出來ぬ。國旗に對する觀念なども極めて幼稚で、其の普及なども容易ではない。今後國家精神の涵養や、皇室に對する忠誠の觀念など、教育の普及と相俟つて、充分根強く植付ける必要があらう。

複雑な警察機關

今の滿洲は制度の上に於ても随分複雑である。關東州あり、滿鐵附屬地あり、こゝには日本の行政が行はれて居る。滿洲國內の日本人には所謂治外法權あり、日本の法律に服して居る。例へば新京に於ける警察機關を舉げて見ても、附屬地警察あり、領事警察あり、憲兵あり、守備隊あり、それに滿洲國側の首都警察あり、北滿特別區警察あり、時に依るとこれ等が一緒になることもあり、管轄上争ひを生ずることもある。これ等も治外法權の撤廢と相俟つて、整理統一さるべき重要事項の一つであらう。

治外法權の撤廢

治外法權の撤廢及び附屬地行政權の移讓問題も、既に方針としては決定された事柄で、其の實施に就ては時期と方法丈けが残されて居る。現に附屬地に居る者は、極めて寛大な營業税の負擔を受けて居る丈けで、各種の營業や事業も、殆んど無税に近いものであるのに反し、滿洲國內で

は異なる課税、しかも重い税を受けて居るといふことは、同じ滿洲國內で、日滿兩國が一身同體になつた今日、極めて不合理のことである。當局の方針としては課税權より徐々に撤廢移讓するといふことであるが、無理もないことと思ふ。兎に角多年享有する日本人の利益を一朝にして奪ふことになるのであるから、具體的問題に當面した時には相當面倒なことも起らう。

土地は滿洲國內に於ては、日本人は古い條約に基いて商租權を有する丈けである。ところが此の租借權は抵當權の目的となり得ない、其の地上にある家屋丈けが、擔保に供し得ることになつて居るから、金融上の不便が多く、強いて租借權を擔保に供せんとするには、勢ひ賣渡擔保の如き形式をとらねばならず、不動産金融上改善を要する點であるが、治外法權の撤廢と同時に、完全な所有權にかはればそれでよいわけである。

協和會

滿洲各地に亘り協和會なるものが出來て居り、縣省の協和會を統一して中央に其の本部がある。これは法制上の機關ではなく、時に政治上の意見を進達し、時に諮問に應ずることもあるが、政

府の指導の下にある組織である。官民間の意思疏通の機關として、將來を期待せられて居る。將來地方議會の素地ともなり得るかも知れぬが、中には一國一黨として政黨的意義を持たせ度いと考へた人もある様だ。けれども中央政府の方針としては飽く迄官民融和の機關、滿洲國建設の助成機關として指導して行く様である。協和會としては未だ具體的の事業等はないが、なか／＼熱心な人もあつて、將來相當の活動を爲す様になるだらう。

在滿行政機構問題

在滿帝國機關の機構改正問題は、一時世上の問題となり、相當議論の種を蒔いたが、今日では極めて落ち付いて居る。關東局に於ける警察機關を憲兵司令官の隷下に屬せしめて、一時紛糾を見たが、幸ひ其の人選宜しきを得た爲め、安んじて皆働いて居る様である。たゞ關東州を統轄する關東局が、其土地を離れて、新京にあることは統治する官吏の側からいへば便利であらうが、被治者たる人民の側からいへば、極めて不便であるといはなければならぬ。

一番無用の長物と思はれるのは、對滿事務局である。全權大使は外務大臣の指揮を受けるし、

關東局長官は總理大臣の監督を受ければよいし、軍司令官は陸軍大臣なり參謀總長の指揮を受ければ善いのである。對滿事務局なるものは如何なる仕事を爲し、如何なる必要ありやは、全く了解に苦しむ所である。

今迄關東軍の中に特務機關があり、特務機關は又各部門に専門顧問を有し、こゝで各種の問題を調査研究し、其の結果を滿洲國に指示して、行政の運行をなさしめて居つた組織は、今は無くなつた様である。滿洲國政府部内の各方面に、日系官吏の相當な人物、關東軍をして謂はしむれば、「日本内地にも見られない様な立派な文官が澤山」配屬されて居る以上、更らに之れを指導する様な特務顧問の必要はない筈である。之れを廢止して事務の單純化を圖ることは當然である。若し未だ残つて居る顧問があれば、之れが全廢を一日も早く希望する。

文武官の軋轢とか、日系官吏間の鬭争とか往々耳にする所であるが、此の種のこととは内地の官吏間にも多くあることで、滿洲國に限つたことではない。特に甚しいといふこともない様である。強いていへば内務省系統とか、大藏省系統とか、自ら別れて居る様であるが、強いて問題とするにも當らぬ。要は日系官吏が滿洲國建設の精神、日滿議定書の要旨を忘るゝことなく、日

本と滿洲國との依存關係に立脚して、實情に即したる政治をして行けばよいのである。

官吏軍人の風紀素行等に就ては建國當初に於ては、如何がはしいものもあり、指彈せられる様な行動もあつた様であるが、今日に於てはそんなことはない様である。

鐵道の一元化

産業開發の根幹を爲すものは鐵道であるが、滿洲に關係の鐵道は滿鐵本線と、讓渡された北鐵を加へた滿洲國の所謂國鐵である。それに北鮮三港を連結する北鮮鐵道である。國鐵と北鮮鐵道は何れも滿鐵の管理に屬し、統一的經營の下に漸次改善されつゝある。國鐵を滿鐵の經營に移したからといつて、直ちに滿鐵同様にすることはなか／＼困難である。線路や車輛の問題もある、時間や系統の問題もある、運賃の問題もあり、従業員の問題もある。就中運賃の如きは産業の盛衰に關係する所最も多い。從來國鐵は運賃が甚だ高く、遠距離低減法も行はれて居なかつた。滿洲全野に産するものは大豆や小麥や高粱や包米等の農産物である。それから山から伐り出す木材や石炭である。距離が遠隔で、運賃が高かつたら、これ等の物資が安く捌かれる理由がない。ハ

ルピンで製造する麥粉の販路が萎縮して、濛州産の麥粉が新京近く迄進出して來るのも、運賃關係が可なり大なる理由を爲して居る。濛州から大連迄運ぶ小麥粉の運賃に比し、大連からハルピン迄の運賃は其の十倍近くであつたことに徴しても、思ひ半ばに過ぎるであらう。尤も現在では小麥粉の運賃は著しく低減されてることである。

石炭にしても撫順で一噸七圓のものが、奉天では八圓、新京では十一二圓、ハルピンでは二十圓もするのである。今後ハルピン方面では北滿奧地方で採掘したものを使用し得るから、もつと安い石炭が使へるだらうが、かゝる高價な石炭を使用しては産業の起りやうがない。

木材にしても伐採上匪賊の妨害等もあり、之れを手なづける爲めに、無益の失費を要する等の關係もあるが、運賃が高い爲めに、現に滿洲國內の需要をすら充たし得ず、木材を輸入して居る有様である。

鐵道運賃低減法も漸進的に行はれつゝあり、従業員の特遇も先般改正せられて、國鐵と滿鐵との均等化も行れ、更に進んで國鐵の鐵路局も廢して、完全に滿鐵と一體の經營にすることと、所謂經營上の一元化も、漸次實現せられるであらう。北鮮鐵道も既に買収することに決定して居

るさうであるが、松岡總裁に對し其の實現の一日も速かならんことを要望する次第である。

一一

重 要 産 業

産業の各部門に就ては詳細に記述すれば際限がないから、要を摘んで説いて見たい。

滿洲の農村は目下非常の不景氣に悩まれて居る。それは主要農産物たる大豆の暴落より來て居る。従來獨逸に輸出された大豆は、全く其の途を閉されてしまつた。支那にも關稅障壁の爲め出て行かぬ。硫酸に壓倒せられて居る日本にも餘り出て行かぬ。かゝる事情で、大豆の前途に對しては好轉の曙光を認めることが出來ぬ。政府當局は従來の大豆を小麥に轉向せしめんとしつゝある様であるが、此の際何とか根本的の對策を講じてやらなければ、農村の前途は實に寒心に堪へない。米も今後いくらかでも増産し得る様であるが、内地産米との關係もあり手心を要するであらう。

石炭は重要輸出品の一つであるが、現に九千萬噸を産し、内四千五百萬噸を輸出して居る。北滿の奥地には良炭の採掘が初まり、滿洲炭礦會社は濟道炭礦の採掘に着手し、將來年五百萬噸出炭の計劃があり、撫順では現に八百萬噸を生産して居るが、更に三十萬噸増産の計劃もある。故

に近き將來に於て年額輸出六七百萬噸の見込があり、益々重要産業の威力を發揮しつゝある。

鐵鋼は現に五十萬噸を生産し、日本には二十萬噸が輸出せられて居るが、近く八十萬噸が豫想せられて居る。昭和製鋼所は銑鐵一貫作業に依り、従來の鋼片鋼材の輸入を減少せしめ、將來年約二十萬噸の日本向鋼片の販賣計劃を立て、居る。鞍山には住友でも既に事業に着手し、其他二三の鋼鐵製品に關する事業會社が出來つゝある。

硫酸に付ては年産能力十八萬噸の滿洲化學工業會社の設立があり、遠からず二十萬噸の輸出が出來ることである。

羊毛は目下七十五萬圓の輸出に過ぎぬが、日滿共同して自給自足の目標の下に、増産計劃が行はれつゝある。

鑛業に就ては滿洲採金會社の外、鑛業開發會社が出來、完全に統制されて、これ等の會社の管理の下に採掘が出來る様になつて居る。全滿に亘り如何なる鑛物がどれ丈埋藏せられて居るかは、大部分未調査に屬して居ることである。

木材は建築鐵道用材としては勿論、パルプ工業の原料として着目せられて居るが、目下吉林の

一三

奥の天然林を伐採しつゝある。匪賊の掃滅と輸出税の減免に依り、輸出増加の傾向にはあるが、現在は約三百萬圓の輸出に過ぎぬ。しかし一方には森林涵養の爲め、鴨綠江右岸の伐採區域を制限し、臨江より上流の區域に限られた爲めに、從來毎年百萬石の出材を見たものが、約三割を減じて、七十萬石程度にならうと見られて居る。

石油は從來一千萬圓の輸入があつたが、專賣となつて、石油精製會社が出来て居る。

自動車は年々二千臺の外國品の輸入があるが、トラック製造の目的を以て、同和自動車工業會社が設立せられた。

醸造業は奉天を中心にして、内地酒造家の競争的進出あり、清酒の醸造を行つて居る。しかし其の需用は日本人間に限られて居るから、將來滿洲人の需用を喚起せざる限り、今日以上の増産は困難かと思はれる、麥酒も年々需用増加し、輸入數量も増加しつゝある。滿洲麥酒會社、大滿洲忽布麥酒會社の設立があつて、輸入品と對抗しつゝあるが、前途尙遼遠の感がある。酒精會社はハルビンに一ヶ所關東州に一ヶ所ある。

産業の重なるものは前述の通りであるが、電信電話の如き公益事業は、滿洲電信電話會社の手

に獨占せられて居り、鑛業は統制せられ、石油、鹽は專賣で、其他重要産業と名の付くものは、滿鐵の傍系會社に依つて經營せられ、滿鐵を離れた民間會社には、殆んど有力なものはない。現に滿鐵の傍系會社と稱するものが七十二社に達して居ることであるが、此の一事を以て見ても、滿洲に於ける事業が滿鐵萬能であるといふことがわかる。従つて政府の專賣と滿鐵の目からこぼれたものには、思はしい大きな工業はないといつて善い。これが滿洲は統制經濟に依つて、内地資本の門戸を閉鎖して居ると非難される點である。將來も大資本は滿鐵を通して、或は直接に進出出来やうが、中以下の資本の入る餘地は甚だ少いといはざるを得ぬ。今後比較的大資本を要せずして經營し得る事業は、製粉事業、セメント工業、製氷等を擧げ得るであらう。見渡した所適切な投資事業はなか／＼見當らないといつて善い。

一 般 商 品

日本商品の販路開拓即ち中小商人の活動舞臺を見ると、是れ亦飽和状態である。滿洲人向の商品即ち木綿類やゴム靴などは、三千萬民衆を相手にするのであるが、深刻な不景氣の爲め著しく

購買力を失つて居る民衆は品物を買はない。最も彼等の趣向に適する人絹も買はない。結局日本商人は日本の商品を持つて行つて、日本人——滿洲全體を通じて三四十萬の日本人を得意として競争して居るのである。一言にしていへば、共食生活を營んで居るのである。内地の廣島市位の所で全滿の日本人が商賣をして居ると思へば間違ひはないのであるから、さう無暗に品物を持つて行つても賣れる筈はないのである。

商賣人でも内地に居た時の氣持で、同じ様な努力と勉強をすれば、必ず成功するのであるが、足一度滿洲の地を踏むと、一種の優越感を持つのか、忽ち洋服などを着出して、一向勉強をしなくなる風がある。豆腐屋でも魚屋でも、内地ならば主人自ら品物を擔いで毎日得意を廻つて歩くのであるが、滿洲へ行くと賃銀の安い滿洲人を傭ひ、自分は手ぶらで歩く、其の間に滿洲人が自立して従來の得意を奪つてしまふ、疊屋でも大工でも、左官でもどん／＼滿洲人が仕事を覚えて行くといふ有様で、日本人の失敗は當然に歸するのである。

關 稅

物資の出入に直接利害關係ある稅關は、滿洲の表門では大連、裏門の方では朝鮮の雄基、清津羅津にある。大連の方は事變前迄は支那の稅關であつて、關稅收入は南京政府のものであつたが事變後は滿洲國に接收し、今や完全に滿洲國の稅關として、日系官吏の手で其の事務を擔當して居る。

日滿經濟ブロックといふことを以て、關稅の障壁撤廢も、其の一事項の如く考へる人もあるが、全然之れを撤廢することは、日本としては、差し當り善いとしても、滿洲國を育て、行く上に、滿洲國內の産業開發の爲めには簡單に片付けるわけには行かぬ。滿洲は從來東三省として、支那の穀倉とせられて居たが、今日同様日本の穀倉たるやは大なる疑問である。又滿洲國は日本の友邦として、飽く迄其の自主的發展を遂げしむるのが日本の使命であつて、日本の殖民地として搾取主義を以て臨む所ではない以上、關稅の保護に依つて國內産業の助長發達を遂げしむるのが當然である。關西方面の人の内には滿洲に於ける工業の勃興を喜ばぬものもあるとのことであるが、これも餘り利己的の立脚に墮したものだといふべきであるまいか。

幣制と國幣相場

滿洲國の幣制は統一せられて居るが、銀建であり、日本は金建である結果、銀相場の高かつた爲め、本年八月頃迄は滿洲國幣一圓に對し、日本貨幣は一圓四錢から二錢位であつた。以前は十錢以上の開きがあつたことである。財政の基礎薄弱な滿洲國の貨幣價格が日本のより高いといふもおかしな話であるが、銀本位といふことの爲めに、さうした結果になつたのである。そこで日本人が滿洲國に投資せんとすれば、其處に爲替上の差損が生ずる。これも事業投資上の障害の一つであつた。

最近滿洲國は輸出不振で、輸入増加の趨勢にあり、國幣の需用は減じ、海外の銀市場に於ては銀價の先行悲觀も行はれ、國幣對金票相場がパーに安定する傾向になつて來た。此の機會に於て爲替管理を施行して其の安定を期し、對滿投資を圓滑ならしむることは、年來の要望を實現する所以であるとせられ、滿洲國政府は、保證金其他擔保に供したる國債證券の九月の換算率をパーとして、九月一日關係部間に通達し、大連税關の換算率も同様百圓と定め、市中相場も之れと呼

應して、パー相場に保合を續けて居る。

十月になつて、滿洲國財務當局と大藏省との協議の結果、日滿通貨統制方針に關し、次ぎの如き結論に到着したといはれて居る。

- 一、滿洲國幣の對外價值は今後日本の圓價に結び、日滿爲替のパー維持を目標とする。
- 二、滿洲國に於て爲替管理法を施行し、財政産業施設の安定と共に國際收支の均衡を圖る。但し日滿の通商貿易については除外例を設け、日本との取引に支障なからしめる。
- 三、日本側に於ては之れが施行に對して、全面的支援を與へると共に、滿洲國及附屬地（關東州を除く）に於て國幣を出来る丈多く且つ廣く使用する様助力する。
- 四、其の第一着手として先づ關東軍の支拂及び滿鐵の運賃等を國幣建として、漸次國幣を朝鮮

銀行券に代らしめ、國幣統一の素地を作らしめ、將來之れが完全なる統一を圖らしめる。

而して國幣の投機的取引を禁じ、日滿兩國の資金が滿洲國を通じて、支那其他の外國へ流失することを防止する目的を以て、爲替管理法が本年中に實施せられることに決定して居る。

爲替管理に對しては又次ぎの様な見方もある。即ち滿洲國の對日國際收支關係が、著しく支拂勘

定にある限り、これだけの支拂を賄ふに足るだけの日本圓の資金を、年々調達せねばならず、而かも之れを我が金融市場に於て行ふことは、技術的に不可能なるのみならず、根本的に此の爲替資金は滿洲國の經濟に依つて、決済されねばならぬものである。従つて實質的に銀と絶縁された爲替相場を、人爲的な點で安定させることは困難であり、人爲的制限乃至取締は、投機的な爲替買乃至資本逃避に付てのみなさるべきものであり、人爲的の安定は困難なりとするのである。何れにするも滿洲國政府當局の熱心な努力と我が大藏當局の協力に依つて、相當の效果あるものと認められる。

幣制統一に關連して當然起る問題は、鮮銀券の引揚げのことである。滿洲國には中央銀行があつて、國內通貨の流通を調節し、その安定を保持し、金融を統制する使命を有する以上、朝鮮銀行券の引揚げを實現せねばならぬことになる。滿洲事變後の鮮銀券の流通は約七八千萬圓に達するといはれて居るが、其の既得權の喪失に付ては、滿洲國としては何等か補償せねばなるまい。これも治外法權の撤廢、附屬地行政權の調整乃至移讓等と關連して、漸進的に其の實現を圖る方針に決定せられて居る。

奉天には國幣相場の取引所があつて、從來盛んに營業して居つたが、國幣對金票相場が百圓パーを實現して以來、全く主要上場物件を失ひ、閉鎖の悲境に陥つたといふのも、滿洲でなければ見られぬことである。多數の取引所員や之れに附隨した人達は、頻りに轉業に狂奔して居つたのは、氣の毒な様であつた。

大連と北鮮三港との關係

大連を以て滿洲の表門とすれば、北鮮の雄基、清津、羅津は其の裏門にあたる。東京より新京ハルビン等への距離を考へると、裏門經由の方が遙かに短距離である。大連は歐洲支那各地方及中國九州方面への要路とすれば、北鮮三港は神戸大阪以東、關東東北方面との交通要路となるべき理由が充分にある。

表門は大連一港で、出人とも今では大連を經由するもの多いから、滿洲全土の不景氣なるに反し、大連は比較的景氣がよい。

北鮮三港の中雄基は港も町も小さく、小じんまりした所である。將來の發展を見越して鐵道の

驛を町から遠くにとつてあるが、今では不便の方が多いやうだ。商工業とも大なる期待は寄せられぬ。

清津は古い町で、總督府でも港灣設備に金をかけて居る。漁港も出来て居る。近くに世界の三大漁場の一を控へて、鱒の漁獲多く、現に之れから漁油を製造する工業が出来て居る。土地も工業地になる所が豫定してあつて、各種の工業を起さうとする意氣に満ちて居る。羅津は天然の良港にして、規模雄大、大きな船が何艘でも入り得る。軍事上の價値も頗る大きい。現に滿鐵では築港の計劃を立て、港灣設備をやつて居る。第一期工事は昭和十二年を以て完成する。工費は千百萬圓で、八千噸級四隻、七千噸級七隻、四千噸級四隻の船をつける岸壁、其他の設備を含んで居る。又更らに同額の金で第二期第三期の工事が繼續せられることになつて居る。町の模様は全く朝鮮人町で、バラツク様な家が多いが、港灣設備と相俟つて、都市計劃が實行せられることになつて居る。汽車の方は雄基の方からの線が完成し、清津を基點として居る國際列車を羅津に移すことになつて居るが、街の整備には未だ時日を要するだらふ。

兎に角表門は一港なるに反し、裏門は三港で、しかも同じ地點への連絡地であるから、三港が

三港とも其の特殊性を發揮して、同じ様に繁榮して行けば結構である。尤も北鮮の奥地には石炭山が多く、しかも良質の炭を産し、茂山等の鐵山もあるから、將來工業地として相當發展する可能性はある。

農 業 移 民

滿洲國に對する農業移民は未だ成績はよいとはいへない。曾て昭和三年滿洲を視察した當時も日本人移民の困難なことを痛感したが、それは今でも變らぬ感想である。曾て關東州内に於て集團移民を實行し、各種の設備を關東州でやつてやり、補助等もしてやつたが、結局失敗に歸した實例がある。關東州の如く治安の保たれた、氣候も土地も交通もよい所でも尙且つ不成績であつた實例に徴しても、奥地への移民の困難さは想像せられる。

先年拓務省や關東軍の協力に依つて實行せられた佳木斯^{チヤムス}自衛移民團なるものは、匪賊の襲撃に遭つたり、氣候風土の爲め、退團者續出し、今日幾分残つて居るが、決して成功して居るのではない。天理教關係者の移民や深川天照團の移民團や、若き學徒に依る鏡泊學園などもあるが、鏡

泊學園は遂に解散の悲運に陥り、其他のものは辛うじて持ち耐へて居る状態である。

由來農業移民は生活程度の低いものが、高い方の土地へ行つて成功し易いものであつて、生活文化の程度の高い日本人が、其の低い滿洲に行つて、匪賊と戦ひ、氣候風土に耐へ、荒涼たる生活を營み、賃銀の安い生活費の少ない勞働力の旺盛な滿洲人の間に伍して、果して成功するかどうか、其の方法なり場所なりの選擇方法もあらふが、先づ以て根本の點を再検討して貰ひ度いものである。

朝鮮總督府では十五ヶ年の繼續事業として、資本金三千萬圓の滿鮮拓植移民會社を設立し、鮮農百萬人の北滿移民を計劃して居るさうである。朝鮮人なら生活の點から見ても、勞働力の點から見ても、或る程度の成功を期し得るであらふ。現に滿洲全體を通じて六七十萬の朝鮮人が居るが、最も素質の悪いのが鮮人で、それが日本人顔をして、治外法權を振り廻すから最も評判が悪い。朝鮮人に對する滿洲人の反感は、相當に強いものがあるから、滿洲統治の上には充分の注意を要する。鮮人をどしどし入れて開墾や耕作をさせれば、それで滿洲の開発は出來ると速斷する様なことをせず、鮮人の統制指導と品位の向上を圖ることが、最も必要であらうと思ふ。

圖們と南陽とは豆滿江を境として、橋に依つて滿洲國と朝鮮との交通をして居るが、例の密輸が盛んに行はれて、圖們的の全人口四萬二千に對し、三萬四千に達する鮮人は、殆んど全部密輸で生活して居ると聞いては、誠に驚くの外はない。安東や山海關に於ける密輸に付ても、朝鮮人が其の主動者だど聞いては、今後朝鮮人の指導善化の上に、深く考慮せねばならぬ。

主要都市

新京は首都として、又政治都市として、各官廳の建築も着々完成し、道路も築造せられ、首都としての體容を整備しつつある。家屋は依然拂底し、借家等をすれば疊一枚六七圓から十圓位するさうである。だから借家を作るか、アパートでも建てる事が、最も有利確實な事業とせられて居る。

新京の政治都市なるに反し、奉天は商工都市として、今後も其の商工業發展の地歩を他に奪はれることはあるまい。現に鐵西と稱する方面には各種の工場が續々建設せられつつある情勢を見ても、其の將來が卜される。

ハルピンは北鐵接收後、露國人と日本人と全く地を換へて、どん／＼日本人の勢力が伸びつゝあるのは欣快を禁じ得ない。五十萬の大都市として、北方に所謂滿洲の穀倉を控へ、將來製粉其他の工業も起り、將來を期待されて居る。

チ、ハルはハルピン以西の中心地で國鐵の鐵路局あり、省政府あり、内地師團の駐屯あり、樞要の地點である。

チ、ハルと反對に東方に牡丹江がある。一方鐵道は露境綏芬河に達し、一方密山や佳斯木に達する鐵道も近く完成し、北滿東部を貫通する圖們への連絡地點ではあり、最新興の町として、家屋の建築に、道路の構築に、非常の忙がしきで、月々日本人の増加驚くべきものがある。獨立守備隊の駐屯もあり、滿鐵の建設事務所もあり、將來の大なる繁榮を期待せられて居る。

將來の景氣

今日迄日本の國費、滿鐵等で、滿洲國に投資せられた金額は事變後十二三億とせられて居る。農村は深刻な不景氣であるが、年々日本から投資せられた金や、増加し行く旅行者の落す金で、

所謂インフレの景氣で、都市の繁榮は維持せられて居るが、家屋の建築、道路鐵道の建設工事が一段落を告げる頃にもなれば、或は深刻な不景氣が襲來しはしないかと案ぜられる點もある。漫然滿洲を寶庫視し、滿洲へ行きさへすれば、金儲けが轉つて居るといふが如き夢は早く醒まさなければならぬ。堅實な經濟的地歩の上に滿洲國の發展を企圖せねばならぬ。今や丁度其の反省の時期に達して居るのである。

銀行なども政府の力で統制せられ、小銀行の合併も行はれて居る。事變後三年間に滿洲國に設立せられた五萬圓以上の會社は、二百六十八社、創立準備中のもの五十二社、計三百二十社の内其の三分の一は合同又は解散をせらるべき運命にある一事に見ても、一時滿洲熱に浮かされたことがわかる。

見本市と消費組合

事變後滿洲國見本市なるものが、各府縣の連合に依りて計劃せられ、年々實行せられて來て本年も夏の間に開催せられた。大連を振り出しに奉天、新京、ハルピン等で、各種の商品の陳列が

あつた。これには卸賣商人や土地の有力者のみを招待し、一般大衆には公開せぬことになつて居る。それは卸値段が一般消費者にわかると、商賣がし悪いからださうである。けれども折角費用をかけ、内地の官吏や商人が多数押しかけて行つてやるのであるから、最も効果的にやつたら善くはないか。結局は需要を喚起するのが目的であるから、廣く大衆を目標とする必要が大いにあらふと思ふ。其の遣り方に付て非難の聲も相當にある。極端なものになると、内地官吏の滿洲旅行の方便に過ぎぬといふ様なこと迄いふ。今後廢止するといふ議論もある様だが、廢止しても日本の商品の進出には一向困らぬことだけは確かだ。

滿洲に於ける商人の脅威は四萬の組合員を包擁する滿鐵消費組合である。直接内地より大量の品物を仕入れ、運賃なども割引さしてやつてるから、品物の値段は一般市價よりは遙かに安い。加之現金でなく傳票で買入れが出来るから月給取には極めて便利である。滿鐵従業員といへば最も大きな消費者である。これには一般商人は對抗的競争は出来ず、最も苦痛として居る。最近國鐵従業員中にも同様の組織が出来、滿洲國官吏側にも出来、之れに對し市中商人側の反對も起つて、其の間の調停に當局が苦心して居る。双方に理由のあること丈けになか／＼むづかしい。

南司令官との會見

南司令官は頭腦の極めて明晰な渾健な思想の持主で、部下を愛し、内外の信望を集めて居る。陸軍部内傑出の人物たることは周知のことである。一日軍司令部に訪問して會見したが、其の要旨を左に摘記して見やう。

一、内地の政治には全然關心を持たぬ。次ぎの總理大臣だなどいふデマは實に困る。滿洲國建設の重要性に鑑み、専心こゝで努力する外何物もない。内地より來る政治家などには、成るべく面會せぬ様にして居る。

二、日本よりも遙かに後れて居る滿洲人は、次ぎ／＼に新らしいことに出逢ふので、鳩が豆鐵砲を食つて驚いてる様な時期であるから、功を急いで無暗に新らしいことをやるのは考へ物である。内地より來た少壯官吏などに對しても、漸進主義を以て其の實生活に則した政治を行ふ様に常に警めて居る。建國以來未だ三年にしかならぬのだから、臺灣朝鮮の例に見ても、氣永にやる必要がある。

三、内地からの視察者は兎角眼光が狭少で困る。日系官吏同志の反目とか、軍部と文官との對抗とか、軍人の専横とか、あら探しをする様な批判が多くて困る。其處へ行くと歐米人は日蘇間に戦争は起りはしないか、其の様な場合に果して満洲人は日本について行くかとか、一段視野の高い所から質問する。兎に角日本國民は一致結束して、満洲國を立派に育て上げる責任を痛感し大局から其の助成に協力せねばならぬ云々。

南軍司令官を中心にして、満洲國政府部内には、日系官吏の先輩であり、敏腕の聞え高き長岡總務廳長あり、交通産業の實權者たる滿鐵には松岡總裁あり、この三巨頭の緊密なる握手協力に依つて、満洲國の建設と内部の整備とは徐々に完成されて行くであらう。

北支の新情勢

北支と滿洲

北支とは所謂河北五省を指していふのであるが、滿洲に比して、地域の大小は比較にならぬが人口は滿洲の三千萬に對し、北支は一億以上を包擁し、滿洲の人民は滿洲土着の人か、山東移民から成る最下級の勞働農民にして、生活の程度も、文化も低く、地味も比較的善くないし、土地の廣い丈けに、交通其他の開発に多大の勞費を要するわけである。之れに比して北支は地味も豊沃であり、文化や生活の程度も高く、北京天津等百萬以上の大都市を建設して居る丈けに、一體の調子が高いといふわけである。

治安の維持と對日感情

我が駐屯軍の活動と威力に依つて、外觀は極めて平靜であるのみならず、排日排貨等は殆んど跡を斷つたといつて善い。滿洲の様な匪賊も出ないし、于學忠軍の撤退に依つて、人民を虐げる

様なものもない。

十月の末頃香河縣を初め所謂非戰區域内に於て、各地に農民自治運動が起り、縣城を占領して自治の宣言を爲し、不穩の空氣洋溢し、暴動化の虞もあつたが、其の後平靜に歸した様である。其の宣言を見ると、國民政府並に國民黨を絶對否認し、官吏の苛斂誅求を除き、土地の公有に反對し、赤化の侵入を防守して地方自治の實行を期するといふのである。又近村の救済、苛税の廢止、地租並に鹽の付加税輕減を實行して、大衆の福祉増進を目的とするところは、北支人の意圖を表明して居るものといへやう。

一般に日本人を恐れることは意想外で、停車場の混雜の場所で、日本婦人などに道を明けて通る様な状態で、事變前とは隔世の感があるとは、彼地に在住する人の實話である。治安も大した心配もなく、日貨の排斥もないとすれば、今後の日本人の活動は大變自由になつたわけで、日本人進出の絶好の機會到來せりといふべきで、北支へ北支へとの叫び聲の揚るのも當然である。

深刻なる不景氣

北支も人民の九割は農民である。農業立國たる此の地方の自然的特殊性は、急に變更することは出来ぬ。中華民國成立以來廿餘年、其の間兵亂に次ぐに兵亂を以てし、農民は最も大切な牛馬を取り上げられ、荷車を徵發せられ、貯藏した穀物は奪ひ去られ、百姓の全資本を失つた上に、經濟上の大勢に壓せられて、深刻な不景氣に襲はれ、購買力は全くなくなつて居る。排日等がなくとも日本の商品など賣れない道理である。此の全般的經濟狀態の立ち直らぬ以上は、日本商品の進出の見込は急にはない。

經濟開發と政權の確立

北支の開發振興の方策として、日滿經濟プロツクの延長、或は日支經濟提携の必要が強調せられて居る。先般華北經濟協會の組織が提唱せられ、平政整合代理委員長王克敏が主唱となり、北平銀行公會常員周作民、北平市商會主席鄒泉孫、清水大使館書記官等が委員になつて協議をすゝめ、十月初旬其の成立を見るに至つた。これは河北の産業開發を目的とし、日支双方の投資を求める機關である。之れに對し天津には、東亞經濟協會なるものが、民間有志の間に設立せられた。こ

れも日支經濟の提携を主唱し、地方感情の疎通を圖り、各種産業の調査を行つて、資本を集め、技術的人材を照會し、交通鑛山牧畜水利の開発を目標として居る。

華北經濟協會は北支事件に依つて、政治的に退却するに至つた南京政府が、北支の經濟統制を強化し、日本の經濟的進出に對應せんとするものであるといはれて居るが、必しもさうばかりでもなさうである。現に其の委員であり、協會の中心人物たる金城銀行總經理周作民等の意向は次ぎの様に傳へられて居る。即ち日本の資本を歓迎し、日支共同出資の下に、河北産業開發に邁進すべく、同會を支那側の中心機關とするのである。専門委員は先づ綿業、製鐵、及石炭の三委員會を設置して調査研究に當るのであるが、綿業に就ては現に成立せる河北綿花改進會を主體として、綿花の根本的改善と奨勵に全力を注ぎ、これが爲め必要なる資本の一部を日本に仰ぐこととし、一ヶ年八千萬圓乃至一億圓程度の綿花を日本に輸出することは、必しも難事にあらずとしてゐる。

北支經濟開發に對する一つの惱みといふのは、北支一體に漲る不安の空氣である。成る程治安は維持せられて居る、日支の關係は少くとも北支に關する限り好轉して居る。決して今日より惡



くなる筈はないけれども、北支の政治機構若くは政治關係は、今後此の儘では行くまい。何等かの變化が近き將來に於て起るであらふ。若し變化が起るとすれば如何なる結論に到着するか、此の點に就ては殊に支那人側に其の不安が大きい。此の不安が一掃されない以上、少くも支那人は新事業に手を出すとか、投資するとかいふ事はないし、我國の資本家に於ても同様である。此の不安の一掃は、我國の爲すべき今後に残された最大重要案件であつた。

最近南京政府が突如實行した幣制改革に伴つて、銀國有令を發布したが、山東河北察哈爾の三省當局は、南京政府の財政々策に對抗して、現銀の中央輸送を停止し、平津衛戍司令宗哲元を中心として、北支人の北支自治結成と南京政權との分離の氣運が、益々濃厚になつて山東の韓復榘も加はり、山西省も入り、北支五省を聯ねた自治の新天地が開拓される様な情勢にあつたが、南京政府の切り崩し運動も起り、英米の策動もあり、急速に其の實現は困難になつて來た。其の間戦區に於ては戦區督察專員段汝耕が、十一月廿五日戦區丈けの自治を宣言し、冀東防共自治委員會を組織して、中央より離脱し、外交軍事政治の各事項を處理することになつた。

北支自治の情勢切迫に對しては南京政府も極めて重大關心を持ち、一方有吉大使や駐在武官に

泣きを入れるやら、北支將領の懐柔を試みるやら、百方々策を盡し、遂に中央の特使として何應欽を特派し、宗哲元其他北支の將領と折衝を重ねた結果、北支民衆の待望と、動かすべからざる情勢に餘儀なくされて、十二月七日に至り自治新政權の實現を承認するに至つた。其の内容の骨子は次ぎの様である。

一、北支那の特殊性に適應する爲新に冀察政務委員會を組織す、政務委員會の權限は内蒙自治委員會に則る。

二、自治委員會は河北省チャハル省並に北平、天津二市を統轄する。

三、委員長には宗哲元を就任せしめ、委員は北方人を以て構成し、中央の代表を參加せしめぬ

四、銀國有令は北支那に適用せず。

五、自治委員會は赤化の東漸阻止、經濟合作其他につき日滿兩國と緊密な連帶關係を確立する。

而して宗哲元は南京政府任命の冀察綏靖主任を兼務し、河北、察哈爾兩省當局全部が現職に居据つて、新政權を構成することになつた。新政權には戰區の冀東防共自治委員會が合流するか否か疑はしく、山東省、山西省、綏遠省の三省は除外され、河北省政府主席商震も他省に轉任する

だらふといはれて居る。財政上には鹽稅の一部、鐵道收入及び地方稅を以て財源とし、關稅には一切手を觸れぬ様だ。

兎に角北支の自治機構は去る九月廿四日多田駐屯軍司令官の談として發表せられた。

一、北支五省より徹底的に反滿抗日分子を驅逐すること

二、北支五省の經濟權を南京政府の隸下から引離すこと

三、赤化防止の爲め北支五省聯合の自治體を建設すること

といふ聲明と照合して、我國の意圖も夙に想像することが出来るのである。今後の新政權の運用には、尙種々の問題も起らふが、我國の經濟進出には一段と有利になつたわけである。

政治機構の變革と政局の安定を得た上で、經濟的進出の手段として、我國の執るべき方法は如何にしたらよいか、これはやはり滿鐵が第一線に立つべき筋合であらふ。現に滿鐵は天津にも北京にも事務所を有し、相當の人が色々調査研究をして居る。更に進んだ調査研究も必要であらふが、第一番に乗り出すものは滿鐵を措いては他にない。ところがこれには資本を要する。如何に滿鐵と雖素手では如何ともすることは出来ぬ。この資本を作ることが目下の滿鐵として出来るだ

らふか。滿洲支けでも手一杯である上に、更に北支進出の資金を作り出すことは相當の困難がある。内地の資本家が北支進出の經濟的價値を認識し、國家本位に立脚した勇猛心を振り起さぬ以上は可なり困難な問題である。第一線に立つべき興中公司の活躍を今後期待する。

北支の幣制

幣制の複雑なことは支那特有で、單一化の必要は何人も認めて居るけれども、其の由來する所深く、一朝一夕に解決することは困難である。兌換券の發行權を有する支那の銀行は八行あり、外に日本正金銀行と、米國のナショナルシティバンクの二行がある。銀行それ自體の信用狀態が直接銀行券の信用に影響を及ぼすといふわけで、極めて微妙な關係にある。

南京政府の銀國有令に對し、現銀の上海集注に反對するのも、かゝる制度の上では自衛上無理からぬことである。銅貨は補助貨なれども、それ自體に實質的價値を有し、これ亦日々相場の変動がある。

右の様なわけで、紙幣と銀との間には價額上常に大きな開きがあり、日本や英米との相場も日

々變動し、商賣上にも商賣で儲けて、相場で損をする事例がいくらもあるから、商賣人は常に相場に敏感でなければ、意外の損失を招くことがある。

銀の密輸出の盛んなことも驚くべきで、千弗に付き紙幣と銀との相場の開きが、百三十弗位の當時、山海關迄持つて行けば、七十圓位儲かつたといふことである。朝鮮人が僅か四百圓の資本を以て、銀の密輸を初め、今や數十萬圓の富を成したといふ話もある。北平には千人餘の朝鮮人が居るが、密輸で生活して居るものも多いとのことだ。山海關には盛んな頃には日々何十人といはず、千圓二千圓の銀貨銀塊を身につけた鮮人の群を見たことであるが、支那の税關などはいゝ加減のものである。

北平市長との會見

袁良氏は北平市長となつて漸く一年有餘にしかならぬが、藍衣社を後援して居つたとか、初めはさうではなかつたが、後に反日に轉向したとかいふ理由で、最近辭職した。久しく日本に留學し、日本語が達者であると聞いたので、本年九月其の市長時代に、大使館若杉參事官の紹介を以

て、市政公署應接室に於て會見した。五十足らずの、でつぶり肥つた、背は餘り大きくない、支那服で秘書を帯同して出て來た。

會見劈頭から日支親善が話題に上つたが、彼は開口一番、これ以上の〇〇の壓迫は困ると衷心から訴へて居たが、次ぎの様な問答を重ねた。

問 一面には日本との關係に於て、一面には南京政府との關係に於て、御立場は困難ではないか。

答 市は御承知の特別市で、直接中央政府に隸屬して居るから、日本との折衝は中央政府がやるし、市は直接關係せず、自分は若杉參事官等と常に接觸を保ち、誠心誠意をモットーとして働いて居るから、別に困ることはない。

元來吾々は日本に對し反感を有せず、現に武備學堂の教師は皆日本に留學したもので、充分日本を理解して居る。吾々は日本の優越せる點を認識して居るから、例へば技師を招聘するにしても、日本人ならば文字はわかるし、俸給は安いし、食事もしよに出来るし、生活様式も同一になし易い、けれども歐米人は左様には行かぬ。故に吾々は日本の進歩した文化に信頼し、日本に

依つて支那の開發をして行き度いと考へて居る。

問 一部の支那人は御説の通り日本を理解し、日本を信頼するかも知れぬが、過去に於て吾々は南京事件、濟南事件、上海事件等を惹起し、其他各地に排日排貨の幾多の事例に遭遇し、堪へ難き苦痛を嘗めた經驗がある、過去のこととは措いて問はず、今後は心から兩國相提携して行かぬばならぬと思ふが如何。

答 黨部の若い人達が爆彈を携行して、日貨排斥をして居るのを街頭に於て目撃し、其の中の一人を招致して、君等の行動は憂國の精神から出發して居るのであらふが、結果に於ては決して憂國にならぬことを懸念し、更に多数を集めて同様の趣旨を説明し、若い身を以て今後専ら修養に努め、技術を習得し、學問を覚えて、それで國家に貢献せよと諭したら、皆釋然として了解し黨部を解散した様なわけである。今後は日貨排斥をやる様な者はないと確信する。

問 日支提携殊に經濟的の依存關係を緊密にするのは有無相通する様にせねばならぬ。然るに現在の支那の關稅は高率に過ぎ、日本品の進出に非常の障害を來して居るが、此の點を改善する途はないか。

答 それに御尤な御説であるが、なか／＼無づかしい問題である。御承知の通り國民政府は非常に貧乏で、財政に窮して居る、而して關稅は唯一の財源であるから、實に已むを得ざることである。尙之れは各國に對し平等で、獨り日本のみではないから御諒承を願ひ度い。日本は距離に於て最も近く、生産費も安く、運賃も少なくて済むのであるから、他の國よりは有利と考へる。しかし將來は適當の改正を行つて、有無相通することを容易ならしめる様努力し度い考へである云々。

低資融通と棉花の獎勵

農民といはず商人といはず、疲弊困憊のドン底に沈んで居るので、北京市當局は其の救済の方法として昨年より低利資金の融通を行つて、相當の成果を收めて居る。其の方法は金城銀行と協議し、百萬圓を基金とし、一人二百圓を限度として七分利を以て貸付を爲し、本年九月迄に貸付戸數は一萬五千、一戸平均二十五圓に當るさうである。擔保は取らず、從來高利貸に惱されて居たものが、其の毒手から救はれて非常に喜んで居る。滯納者は一人もないとのことであるが、果

して事實とせば、先進國たる日本の低利資金融通の實績に對照して、恥かしい氣がする。

棉花の栽培は市當局の昨今獎勵する所で、良種を市の農事試驗場より無償配付して其の普及に努め、本年は三萬ピクルの生産額を得るの見込だとのことであつた。棉花は滿洲の方よりは遙かに地味に適し、品種さへ改良すれば日本に輸出が出来る。日本としても各方面より排斥されつゝある紡績の原料を取返すことが出来、將來好都合なわけである。

鹽、紡績及人絹等

白河の下流塘沽から沿岸一帯の地は鹽の産地である。雨が少なく製鹽に適して居るが、極めて元始的方法でやつて居る。廣大な砂原に海水を干す丈の設備であるから、幾らでも生産することが出来る。世界二大鹽田の一つで、將來有望の事業である。現在は政府の專賣に屬し、其の爲め支那國民は極めて高い鹽を嘗めて居る。しかし特許を得れば輸出が出来る。日本へ輸出すれば極めてよいのであるが、現在の儘では工業鹽で一般の需用にはならぬ。精製すれば良品が出来る。青島より日本への輸出は特別條約で、税金が安くなつて居るが、北支には其の恩恵なく、青島

で一噸五十錢のものが北支では三弗もする。原價二十錢のものに八弗の税金がかかる様な高價さであるから、今の所では採算上日本に輸出することは出来ぬ。しかし今後外交交渉等に依つて安く出来る様になれば、日本への好適の輸出品である。政府の特許を要するが故に、従來利權屋が其の間に運動し、莫大な費用を費し損をした事例が幾らもある。

人絹の需用は今でも相當に多く、滿洲に比して生活程度の高い北支の人達には、好適の着物である。將來景氣が少しでも善くなれば、どん／＼入つて行く可能性がある。たゞ現在では非常に高率の關税がかかるから困る。しかし密輸で裏道からどし／＼入つて行く様である。現に税金額よりも人絹の現品の價格が安い點から見ても、思ひ半ばに過ぐるであらう。

紡績に付ては天津に三四の工場があるが休んで居る。一つだけ日本人の管理の下に動いて居るのがあるが、やつて行けぬことはないとの觀測が多かつた。この地方の棉花の栽培と相俟つて、將來有望の事業であらう。

果樹は有望視されて居るのは、張家口方面及山海關方面の昌黍等である。雨が少く、葡萄、林檎、梨等に適する土地が多いさうであるが、現在では在來種が多く、改良の餘地が充分ある。追

々此の方面にも手をつけて、品種改良を行へば必ず立派なものが出来るとに相違ない。元來支那人は果物を愛好する國民であるから、果樹の栽培は日本人には適當な事業であらう。

其他鐵といひ石炭といひ豊富な埋藏量を有して居るから、鐵道自動車等の交通機關の整備と相俟つて、鑛山の經營、農耕地の開發等滿洲以上に有望である。

従來の支那の軍閥なるものは搾取主義一點張りで、地方の開發とか、産業の振興など眼中になく、何でも人民から取り上げさへすれば善いのである。今の國民政府のやり方も亦然りで、毎年北支から取り上げる金は一億五六千萬弗であるが、北支に費す金は六七千萬弗に過ぎず、他は國民政府の搾取になるわけである。北支自治運動の起つたのもこれ等の點が動機を爲して居るのは事實である。北支の政治機構が何れに落ち付くとしても、今後日本と北支との關係は一層緊密のものとなり、交通産業の開發も行はれ、地方の福祉増進も出来る様になれば、不景氣の回復も遠からざることと思ふ。富の程度の比較的高い一億の民衆は、日本の市場開拓の場所としても最も好適の地であり、日本としては深く北支に關心を持ち、將來躍進の準備をすることが大に必要である。

天津、北平には洋車(人力車)が多く、大連其他滿洲各地で見る如き馬車、荷馬車は極めて少ない。天津日本租界丈けで人力車の税金が、年々十萬圓以上に達するといつて、小栗居留民團長が話された。月一圓の税金はよいとして、天津には支那街の外、日英佛伊の租界と獨塊及露國から回收した特別區があつて、日本租界の免許鑑札は英租界其他には適用せぬことになつて居るから、全市を走り廻つて營業するには、各租界に對し月一圓の税金を拂はねばならぬことになつて、賃銀の安い車夫にとつては容易ならぬ負擔である。これも支那風景の一つであらう。

昭和十一年一月六日印刷納本
昭和十一年一月十一日發行

著 者 平 賀 周

東京市目黒區中根町一九八七

發行者 郡 谷 照 一 郎

東京市日本橋區江戸橋三ノ二

發行所 日 本 商 工 俱 樂 部

東京市日本橋區江戸橋三ノ二

印刷所 金 羊 社

東京市芝區櫻川町十一番地

終

4
9